この人に聞く

参院議員 山本ひろし氏

「支え合い」の社会構築へ
命と暮らし守る施策実現に奔走

今夏の参院選に挑む、公明党の山本ひろし参院議員（参院選予定候補＝比例区）に1期目の取り組み、2期目に向けた抱負について聞いた。

◇

――1期目を振り返って。

山本ひろし氏　福祉や医療、教育関係などの施設約1500カ所を訪問し現場の課題を探りました。中山間地域や離島を回ることで、大都市と地方の格差が見えてきました。地方は交通機関や介護サービスなどで選択肢が限られています。これを「何とか解決したい」。制度のはざまで苦しむ人たちの声を「絶対に国政に届ける」と無我夢中で走った5年半でした。

――「障害者優先調達推進法」「改正離島振興法」「造血幹細胞移植推進法」などの議員立法を推進しましたね。

山本　障がいがある長女の育児・介護の経験から、障害者虐待防止法、改正障害者基本法、障害者総合支援法など障がい者政策に関わってきました。障害者優先調達推進法は、働く障がい者を支援するため、障がい者就労施設からの製品購入や業務委託を優先的に行うよう国や独立行政法人などに義務付けるもので、党作業部会の座長として法整備に全力で当たりました。

――離島振興に尽力されました。

山本　党離島振興対策本部の事務局長として、島根県隠岐の島町や山口県萩市の見島など全国74の島々を現地調査し、党「離島振興ビジョン」を作成。昨年6月に成立した「改正離島振興法」では、離島振興を「国の責任」と明記させ、介護や医療、教育などソフト事業に活用できる「離島活性化交付金」の創設などを盛り込み、ビジョンの大半を反映しました。定期船、し尿処理施設がないなど、地理的ハンディを抱える島民の皆さまが、離島に住み続けられる環境をつくっていきたいと思います。

――再生医療研究の前進にも貢献されました。

山本　「造血幹細胞移植推進法」は、党プロジェクトチームの事務局長として推進しました。白血病など血液の難病に有効な治療法である造血幹細胞（さい帯血、末梢血幹細胞、骨髄）の移植を拡大するためです。この法律により、さい帯血を研究に用いることが可能となり、iPS細胞などの再生医療研究の進展が期待されています。

――2期目に向けた抱負を。

山本　生活困窮者などの孤立死を防ぐため、ガス、水道、電気など民間事業者に情報の提供を要請する「命を守るネットワーク」を構築したい。また、高額療養費制度を見直し、70歳未満の年間所得300万円以下世帯の医療費負担上限額を、現在の月額約8万円から約4万円に引き下げ、がん、難病患者の負担軽減に取り組みます。さらに、長期の引きこもり、不登校などの若者が生活支援を受けながら、就労体験や軽作業に従事できる「中間的就労」の実現など、「支え合いの社会」「包容力ある共助社会」の構築に全力を挙げていきます。

◇

【略歴】党参院副幹事長、同四国方面副議長、同瀬戸内海フォーラム座長。参院議員1期。慶應義塾大学卒。58歳。